

人間関係の構築と組織的な支援体制について



不登校生徒の状況

対象生徒は、入学当初は登校することができていたが、中学校第1学年の2学期から欠席が目立つようになり、11月からは欠席が続いた。中学校には親しい友人はいない。他者の視線を過剰に意識してしまうため集団では疲れてしまう傾向が見られる。また、WISC検査の結果、知覚推理の数値が低いという診断が出ている。

具体的な取組

○校内別室での給食の喫食

当該生徒が校内別室を利用しているときに、学級担任や学年教員に校内別室に来てもらい、会話をする時間を設けた。また、給食を校内別室で学年教員と共に食べる機会を設けた。このような取組を通して学級担任以外の教員とも信頼関係が構築された。

○学級復帰に向けた支援

通常の学級に復帰するための支援として、年度当初は校内別室の机を減らし、パーティションを増やしパーソナルスペースを確保した。しかし、2学期からは机を増やし（机間を通常の学級の距離）パーティションを減らし他者との生活を意識する配置に変更した。

○担任等との情報共有

通室ファイルなどを活用し、当該生徒の情報を学年教員と毎日共有した。養護教諭とは不登校生徒の情報を基に毎朝家庭訪問のタイミング・外部機関との連携について検討し実施した。また、生徒支援や保護者対応を組織的に行うために教員の役割分担や配置など指導全体の中心的役割を担うことで組織的な支援体制の構築を行うことができた。

○SCとの面談

当該生徒が悩みや自己と向き合う時間を設けることで精神的な負担の軽減につながるため、SCと面談する機会を設定した。また、対象生徒だけでなく当該生徒の保護者のケアも大切だと考え、保護者が個別にSCと面談する機会を設定した。

成果

当該生徒に対して、学級担任や学年職員以外に加配教員が家庭訪問や家庭連絡などを行った。多くの学校関係者が当該生徒と関わったことにより、7月からは土曜公開授業において通常の学級で過ごすことができるようになった。また、9月の職業体験にも参加することができた。

課題

小学校からの継続的な不登校が多く、小学校との連携・協力や継続した支援体制の確立が今後の課題である。

外部機関（ＳＳＷ）との連携について

不登校生徒の状況

対象生徒は、小学校低学年から登校することに大きな不安を抱え、登校することができなかった。そのため、学習を積み重ねることができなかった。また、行事にも参加することができなかったため、同級生との関わりがもてなかった。しかし、ＳＳＷとの関わりから断続的に登校できるようになった。

具体的な取組

○外部関係（ＳＳＷ）との連携

週１回、不登校対策委員会で生徒の状況や支援方法についてＳＳＷと共有を図り、当該生徒への支援を検討した。ＳＳＷが週１回程度の家庭訪問を行い、生徒やその家族と面会をし、合唱コンクールや宿泊行事への参加を促した。



○登校時の面談

当該生徒が登校した際に、学級担任に加えＳＳＷも同席し面談を行った。

家族や友人との関わり、家庭生活の様子、学習に対する気持ちや考え方等を聞き、支援の手だてとした。

行事やスケジュールの確認や提出物や持ち物等の確認を行った。

○復帰後の支援

教職員が当該生徒が登校できた日に「今日、来られたね。」と声をかけるようにする。「教室に入れなくても別室で過ごすこともできるよ。」と別室を利用できることを伝える。行事などのスケジュールをこまめに伝えていくようにする。

○学級との関わりの維持

学級の生徒にいつもと変わらずに対象生徒と接するように協力を促した。また、「今度校外学習があるけど、どうかな。」と行事への参加の声かけを促した。学校の予定をこまめに伝えるとともに、学級の生徒が連絡用封筒を届けた。



成果

ＳＳＷの支援により、当該生徒は学校付近まで登校できるようになり、後に行われた合唱コンクールの参観、宿泊行事への参加ができた。また、翌年、通常教室への登校ができるようになった。学級の生徒とのつながりがもてるようになった。

課題

ＳＳＷとの情報共有と支援の継続が課題である。また、学級生徒とのつながりが継続できる環境を整えていくことが課題である。

不登校の未然防止と支援体制の構築について

不登校生徒の状況

対象生徒は、「人間関係のつまずき」、「対人関係の不安」など人間関係の構築が難しく、コミュニケーションが苦手であり、欠席日数が増えている。さらに、欠席が継続することにより学習の遅れが蓄積された結果、より一層、欠席日数が増え、不登校が長期化している。

具体的な取組

○校内体制の工夫

不登校対策を経営支援部の業務に位置付け、管理職直属とすることで瞬時に対応できる体制を整えている。また、不登校対応加配教員が不登校支援コーディネーターを担当し、支援会議及び校内別室の運営、不登校生徒・保護者との相談や家庭訪問等を行い、学校全体で不登校生徒を支援する体制を整えている。

○「キラキラ☆ワード週間」

10 の肯定的な表現から当該生徒が選んだ1つの言葉を、日替わりで教職員や生徒同士で積極的に使用するよう働きかける取組を実施することで、不登校の未然防止や自己肯定感を高める意識の向上を図った。

1: やるじゃん!	2: すばらしい!
3: いいじゃん!	4: 前より、ずっとよくなった!
5: 自信もっていいよ!	6: 最後まで、がんばったね!
7: その調子だ!	8: しっかりできている!
9: Very Good!	10: Good job!

○校内別室における支援①

校内別室支援員を複数人任用することで、当該生徒に対してよりきめ細かな支援ができる体制を整えている。

また、農作業等の体験活動を取り入れることで、当該生徒の自己肯定感や自尊感情を高める取組を実践している。



○校内別室における支援②

校内別室における支援では、教育支援センター指導員と連携し、教育支援センター指導員による週1回の出張指導を併用できる体制を整えている。このことで当該生徒が選択できる学びの機会が増え、校内別室の利用が継続できている。

その他、当該生徒の状況に応じて、医療機関との連携も実施している。

成果

学校内外の関係機関等に相談・指導を受けていない生徒が昨年度の6人から1人に減少した。

また、当該生徒においては、校内別室に定期的に通室する日数が増え、学校や学年の行事への参加につながるようになった。

課題

不登校の要因がより多様化しているため、これまで以上に家庭との連携を強化して、適切な学びの場や医療機関への円滑な接続を図る必要がある。